

——前12月期の業績見通しと今期の事業環境について。

「前期は当初予想よりは上振れし、第3四半期で出した予想のレベルで着地すると見込まれる。半導体製造装置は他の部品が入らないなどで滞っているところもあるが、需要自体は堅調。最先端のものには陰りが見えるが、パワー半導体など線幅の広いものは需要が続いている」

——原料となるニッケル価格が上昇しています。

「低熱膨張合金はニッケル価格の影響をもちに受けるため、ベース価格を決め、ベースを超えた分を市場価格連動制として前月の価格を反映させている。客先には2021年からアナウンスしてきたので理解は得られている。今後電気代や副資材が上がってくるので、その部分もまたお願いしな

新報国マテリアル 成瀬 正社長



2023 トップインタビュー サステナビリティ経営の針路

低熱膨張合金「3Dプリンティングで需要創出」

ければならないと考えている」

——今後の事業の展望について。

「当社は低熱膨張合金のトップメーカーであり、半導体製造装置、液晶有機E

アノズル向け合金『超耐磨耗G』、低熱膨張合金でも金型や宇宙開発向けに力を入れる」

——開発中の新製品の進捗は不特定多数。ノウハウがなかなか、商社と連携を

「『EGNIS』は実機評価が進んできた。ごみ焼却炉は燃やすものによって出てくる物質がずいぶん違

い、耐用年数など評価に時間がかかる。『腐食はしない。CFRPプレス

が割れた』など多様な問題が出てくるが、成果も出

策を続けているところ。い

ずれば有人

ドロンの

エンジン部

品の金型に

参入した

い。これか

——金属3Dプリンティングによる粉末成形品にも力を入れています。

研究投資で会社の力底上げ

「低熱膨張合金粉末は粉

末メーカーと共同開発を進

めている。製造は外部の積

層造形設備を多く持ち経験

がある会社に任せており、

今後規模を拡大する場合は

当社による設備投入も検討

する。3Dプリンティング

なら中空にもできるし、小

さな部品の複雑形状・軽量

化に向いている。宇宙ビジ

ネスなどに用途が出てくる

のではないかと期待

している。用途があって開

発するのではなく、開発を

してそれに合った用途を見

つけるという考えでやって

おり、我々の持つ技術を生

かせる」とコンタクト

したい。国際的な学会への

参加や論文発表なども営業

活動の一環だ」

——人材育成や職場環境

整備などについては。

「当社は100人強の小

規模体制で資金効率は悪い

が、会社を守るため現金を

多く持つておくことにして

いる。利益は研究設備投資

に使う。例えば

低熱膨張合金についてもま

だまだ不明な部分はあり、

研究用にVSM装置（振動

試験型磁力計）を導入予定

だ。この会社の力を

底上げしていくための投資

だ」

——人材育成では外部の経

営セミナーに社員3人が参

加した。今後社内でも育成

カリキュラムを作成した

現場の多能工化では複

数の工程を経験させるよう

取り組んでいる。三重工場

はレーザー溶接機を導入予

定。また、さらなる環境改

善のため欧州の工場を見学

し、参考にすると予定だ」

（あべ みずき）